

柏原病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年12月 策定

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

丹波圏域の中核病院として、小児医療、周産期医療の拠点病院としての役割を担うとともに、地域がん診療連携拠点病院としてのがん診療や救急診療及び消化器、循環器をはじめとする専門医療を中心に地域医療を担っていく。

また、地域の医療機関等のさらなる連携を強化し（紹介率及び逆紹介率の向上）、地域医療支援病院の指定を目指す。

さらには、院内に設置した地域医療教育センターを中心に、医師、コメディカル、学生の教育を行う。また、県養成医の教育拠点（ハブ）となり、へき地への医師派遣やTV会議システムを用いた教育を行う。

平成31年度予定の柏原赤十字病院との統合・再編により、診療機能の充実を図り、丹波圏域の政策医療の拠点病院として、兵庫医科大学ささやま医療センターをはじめとする地域医療機関と十分に連携・役割分担を行いつつ、急性期から回復期まで一貫した幅広い診療機能を安定的・継続的に提供する。

また、圏域の救急医療の中核病院として、2次を中心に、3次的機能病院としての役割を果たすとともに、医学生、研修医、専門医を目指す若手医師等に対し、多様で魅力ある研修プログラムを提供し、地域医療を担う人材育成の中核的な役割を果たす。

丹波市が新病院に隣接して整備する、診療所機能、予防医療（健診）機能、在宅療養支援機能を有する保健福祉施設と新病院をハイブリッド施設群として一体的に運営し、急性期から在宅支援を含む福祉・保健分野まで切れ目のないサービスを提供することにより、丹波市の地域包括ケアシステムの中核的役割を果たす。

さらに、総合診療専門医育成の拠点としても機能させる。

② 今後持つべき病床機能

- ・機能別の病床を配置し、急性期から回復期までの幅広い医療を提供する。
- ・ICU等集中治療室を設置して急性期患者に対応する。
- ・回復期リハビリテーション病床及び地域包括ケア病床を設置して回復期に対応する。
- ・柏原赤十字病院が担っている第二種感染症指定医療機関の機能を引き継ぎ、感染症病床を設置して、二類感染症患者等に対応する。

③ その他見直すべき点

ア 救急医療・災害医療

- ・救急専門医の増員を図り、救急受入体制を強化する。
- ・3次的救急機能病院として、脳血管疾患や循環器疾患、外傷などの重症救急患者に対応するため、高度の診療機能を備えた受入体制を構築する。
- ・災害発生時に適切な医療が提供できるよう、ヘリポートを設置するとともに、DMATカーの活用や広域災害訓練の開催・参加など災害拠点病院としての機能充実を図る。

イ がん医療

- ・地域がん診療連携拠点病院として、病態に応じた手術、放射線治療、化学療法を効果的に組み合わせた集学的治療を実施する。
- ・診療需要の増加に対応するため、外来化学療法の充実を図る。

ウ 脳疾患

- ・新たに常勤の脳神経外科医・神経内科医を確保し、急性期医療・回復期医療を担う。
- ・新病院に回復期リハビリテーション病床・地域包括ケア病床を設置し、回復期（リハビリテーションを含む。）に対応する。

エ 心疾患

- ・ICU等集中治療室を設置して急性期患者に対応するとともに、回復期リハビリテーション病床を設置し、特に心不全のリハビリテーションに取り組む。
- ・循環器内科の診療体制の充実を図るとともに、救急患者搬送体制を強化し、外科的治療が必要な場合は、神戸大学附属病院等との連携体制のもとに対応する。

オ 糖尿病

- ・新たに常勤の専門医を確保し、糖尿病に対する専門治療を行う。
- ・腎臓内科医を確保し、糖尿病腎症に対応する。
- ・予防等については、市センターとの連携を推進する。

カ 小児・周産期医療

- ・2次小児救急医療機関として、重症小児救急に対応する
- ・地域小児医療センターとして、24時間365日、小児の救急入院医療に対応する。
- ・地域における周産期医療施設との連携・調整を図りながら、周産期に関する高度（2次）医療の提供を行う。

キ 血液浄化療法

- ・丹波圏域の中核病院として、透析の導入や、透析患者の合併症等の急性期対応を行う。
- ・地域における需要に対応するため、重症合併症をもつ患者の慢性期の維持透析を実施する。

ク 地域医療支援

- ・地域医療機関との更なる連携推進による紹介率・逆紹介率の向上、救急医療への貢献、高度先進医療機器の共同利用の促進、地域の医療従事者に対する研修・情報の提供、地域住民への啓発活動等に努め、新たに地域医療支援病院の取得を目指す。

ケ へき地医療

- ・へき地医療拠点病院として、医師を育成するとともに、へき地診療所等へ医師を派遣する。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	4	→	6
急性期	180		220
回復期			90
慢性期			
(合計)	184		316

※平成31年度に開設する新病院は、上記のほかに4床の感染症病床を有する。

<具体的な方針及び整備計画>

主な建物は、築後30年以上経過し、老朽化・狭隘化等への対応が課題であるとともに、耐震化についても、一部病棟が未実施となっていることから、県民の医療ニーズに応え、今後も良質な医療を安全かつ安定的に提供していくため、「県立柏原病院と柏原赤十字病院の統合再編基本計画」に基づき、建替整備を行う。

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	○新病院の建築に着手	○自施設の今後の病床のあり方を決定(本プラン策定)	
2018年度	○地域医療構想調整会議における合意形成に向け検討 ○新病院の竣工	○地域医療構想調整会議において自施設の病床のあり方に関する合意を得る ○柏原赤十字病院の閉院	
2019～2020年度	○新病院の開院	○新病院の開院・稼働	
2021～2023年度			

② 診療科の見直しについて

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持	内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、外科、脳神経外科、整形外科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、救急科	→	内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、外科、脳神経外科、整形外科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、救急科
新設		→	神経内科、血液内科、リウマチ科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、消化器外科、乳腺外科、病理診断科
変更・統合	歯科	→	歯科口腔外科

<具体的な方針及び計画>

新病院においては、丹波圏域の中核病院として、高度専門医療を提供するため、神戸大学等の協力を得ながら常勤医等を確保し、新たに糖尿病内科、神経内科、血液内科、リウマチ科、腎臓内科、消化器外科、乳腺外科、病理診断科を標榜する。

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率：86.6%
- ・ 1日当たり入院患者数：277人
- ・ 1日当たり外来患者数：630人
- ・ がんの手術件数：380件／年
- ・ 救急患者受入人数：8,000人／年
- ・ 紹介率：60%
- ・ 逆紹介率75%

経営に関する項目*

- ・ 経常収支比率：99.4%
- ・ 医業収支比率：84.4%
- ・ 入院単価：45,327円
- ・ 外来単価：11,310円
- ・ 給与費比率：66.7%
- ・ 材料費比率：23.9%
- ・ 経費利率：15.9%

【4. その他】

診療機能の効率化（再編・ネットワーク化）を図るため、平成31年度上期（予定）に柏原赤十字病院と統合再編を行う。

さらに、兵庫医科大学ささやま医療センターをはじめとする地域の医療機関との連携を図り、地域住民が安心して丹波圏域で医療を受けられるようにするための拠点としての役割を果たす。